

かたつむり

松岡隆子

雀石岡行隠れや降り出しの雨に音

飛燕はや板戸全開履物屋

常陸野の日照雨にぬれて春逝かす

石蔵の開かずの鉄扉春の雷

何もかも茅花流しの向うかな

青梅の数よく読めて晴れ兆す
高々と鳥影放ち五月の樹
青蘆の風や明日も明後日も
だんだんに芒種の空の下りてくる
雨粒の重たき蛍袋かな
万緑の雨の匂ひに噎せにけり
かたつむり故山は雨に昏れゆけり